

5-2-2 短期大学教育改革 ICT 戦略会議

<事業計画>

短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動のコンソーシアムをネット上に形成し、教育を通じた「高齢者との交流促進・課題解決策の支援事業」、「地域価値発見の支援事業」、「地域課題取組み情報共有の支援事業」のモデルを策定するため、私立の参加短期大学間で試行し、支援事業のニーズや課題を共有して可能性を意見交流する「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」をオンライン方式で実施する。

<事業の実施状況>

「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会」に加えて「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会小委員」を継続設置したが、小委員会は開催せず、運営委員会が中心となって、「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」を実施した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会

令和3年6月19日、7月21日、8月20日、令和4年3月22日に平均6名が出席して4回開催し、開催要項の策定、全体討議の運営、開催結果のとりまとめ及び次年度への対応について検討した。

(1) 開催要項の策定

プログラムは、「短期大学生による地域貢献活動を考える」を掲げて、私立の参加短期大学間で試行している支援事業の取組み状況(コンソーシアム活動報告1,2,3)を踏まえ、支援事業のニーズ及び教育効果、運営上の課題を共有し、推進の可能性等について協議することにした。また、コロナ感染症拡大防止に向けて導入した遠隔授業の体験を振り返り、学生の満足度を高める教育の工夫・改善について、「話題提供」として、「遠隔授業の調査結果から、教育の質向上を目指した短期大学教育の進め方」を武庫川女子大学短期大学のアンケート結果を踏まえて、提案していただき、理解の促進を目指すことにした。

全体討議は、「短期大学間による地域貢献支援事業のコンソーシアム活動を考える」として、地域連携活動に求められる条件・課題、自治体からみた短期大学との連携の有用性と推進方策についての問題提起を踏まえ、協議することとし、以下のように開催要項を決定した。

～短期大学生による地域貢献活動を考える～
2021年度短期大学教育改革 ICT 戦略会議開催要項
オンライン開催

日時 : 令和3年9月9日(木) 13:00～16:30
配信場所 : アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)
主催 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会
参加対象 : 私立の短期大学学長、学科長、事務局長、短期大学の教員・職員、FD及び教育支援・学修支援関係者、産学連携担当の自治体職員
開催方法 : オンラインによるテレビ会議室(Zoom使用)とします。申込者には一週間前にメールでテレビ会議室専用のURLをお知らせします。

開催趣旨

13:00 開会挨拶 短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会 戸高 敏之 委員長

13:10 話題提供

「遠隔授業の調査結果から、教育の質向上を目指した短期大学教育 DX 化の取組み」

発表者 蓬田 健太郎 氏(武庫川女子大学教授、教務部次長、遠隔授業推進特別チーム代表)

- 13 : 45 コンソーシアム活動報告 1
「高齢者支援事業を目指した、ICT による世代を超えた交流活動の試行」
説明者 実践女子大学短期大学部 三田 薫 氏 (短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会委員)
山野美容芸術短期大学 及川 麻衣子 氏(コンソーシアム参加校)
BABA lab 代表者 桑原 静 氏 (交流活動の支援組織)
- 14 : 30 コンソーシアム活動報告 2
「地域価値発見支援事業を目指した、三重県志摩市とのパールズコレクション」とコロナ後の連携体制の展望
説明者 大阪夕陽丘学園短期大学 治京 玉記 氏 (コンソーシアム参加校)
三重県志摩市関係者(予定)
別府大学短期大学部 衛藤 大青 氏 (コンソーシアム参加校)
和泉短期大学 深町 和哉 氏 (コンソーシアム参加校)
- 15 : 05 コンソーシアム活動報告 3
「地域課題取組み情報共有の支援事業 Web サイトの紹介」
説明者 志学館大学 大重 康雄 氏 (短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会委員)
清和大学 西岡 健自 氏 (短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会委員)
- 15 : 25 全体討議
「短期大学間による地域貢献支援事業のコンソーシアム活動を考える」
地域の創生・活性化につなげていく地域貢献活動を、参加短期大学と自治体等が連携・接続する「短期大学間による地域貢献支援事業」の有用性と対応策の方向性について、問題提起に基づき意見交流を行います。
問題提起者：大重 康雄 氏 (短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会委員)
※ コロナ禍における短期大学間での地域連携活動に求められる条件・課題を整理
中平 健二郎 氏 (日野市企画経営課地域戦略担当主幹)
※ 自治体からみた短期大学又は短期大学間との連携協力の有用性と推進方策
- 16 : 25 総括 戸高 敏之委員長
16 : 30 終了

(2) 実施結果

参加者は、54 名(一般 40 名 : 7 短期大学、2 大学、発表者等 14 名 : 6 短期大学、4 大学、2 自治体、1 民間団体)であった。

【話題提供及びコンソーシアム活動報告で理解が進んだ主な点】

① 武庫川女子大学の話題提供

「遠隔授業の調査結果から：教育の質向上を目指した短期大学教育の DX 化の取組」

2020 年 8 月の調査によると遠隔授業で必要とされる支援は、課題の増加を受けて「レポートの書き方」の説明が 65%、学生が受けやすい授業形態は、時間と場所の制約がなく繰り返し学習ができる「オンデマンド型授業」48.5%、「対面授業」32.7%、ライブ配信型授業 10.8%などであった。

コロナ禍による新たな課題としては、新学部学科の開設による短期大学から大学へのシフトの加速、大学での地域連携強化による短期大学教育の特色が目立たなくなることなどにより、短期大学離れが進むという大きな問題がある。また、コロナが長引いており、地域や学生同士のコミュニケーションを如何に確保すべきかに苦慮しているが、ICT による DX 化を進めなければいけない。2021 年度より e ラーニングシステムを利用し

たオンデマンドによる「データサイエンス・AI教育」の全学必修科目を開始した。今後の展望としては、遠隔授業による入学前・入学後のリメディアル教育の充実、教育の質を担保した遠隔教育の活用、遠隔手法を活かした正課外教育の充実、DXを促進するために縦割りから横断型の組織への再構築を目指した準備を進めている。

② コンソーシアム活動報告 1

「高齢者支援事業を目指した、ICTによる世代を超えた交流活動の試行」

実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学が連携して、2020年度前期・後期と2021年度前期に、学生同士、高齢者を含む異世代者との交流を、昼休みの15分～20分間を利用して、数名に分かれZoomのブレイクアウトルームで試行した。2020年度は学生、異世代で聞きたいことを出し合うことの難しさ、機器の操作に不慣れな異世代者へのサポート体制の確保が課題となった。この経験を踏まえシニア向けに生涯学習の機会を提供する民間団体(BABA lab)の協力を得て、2021年度前期では3回に亘り、学生2名～3名に異世代者1名～3名が参加し、15のルームに分かれて交流を試行した。

2021年度前期の課題としては、プレゼンや司会の事前練習の必要性を確認した。成果として、コミュニケーションが苦手な学生を高齢者が励ましており、一方通行の貢献ではなく双方で得る活動になっている。これを実現していくには、一つの短期大学で完結するのではなく、複数の教育機関と異世代組織、自治体が連携することで、可能性がより一層広がっていくことを感じた。今後も大学間・異世代者間・自治体や民間団体の連携を強化し、SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指すことにしている。

③ コンソーシアム活動報告 2

「地域価値発見支援事業を目指した、三重県志摩市とのパールズコレクション」とコロナ後の連携体制の展望

大阪夕陽丘学園短期大学は、志摩市と「文化・教育・学術・まちづくり等の分野の推進に関する連携協定」を行い、真珠の魅力をPRするため、キャリア創造学科の学生、教職員が参加し、志摩スペイン村でアコヤ真珠をアクセサリにしたオリジナルファッションショー、真珠製作体験、ネイル体験などを企画・演出する「パールズコレクション」を2020年2月に実施し、遠隔システムでショーの様子を大阪天神橋筋商店街にパブリックビューイングで同時中継した。2021年2月の「パールズコレクション」では、ファッションショーに加えて、SDGsの企画として再使用生地の無償提供による「シルバニアファミリー人形」の着せ替えなどの準備をしていたが、急遽、コロナ感染症の拡大による緊急事態宣言が延長され中止となった。なお、パールズコレクション以外では、志摩市市民講座において、志摩市オリジナルマスクの製作を行い高い評価を得た。現在、2022年大阪開催のパールズコレクションに向けて学生主体の企画チームを結成し、市民講座の継続開催、地産地消のアオサ海苔の佃煮イベントのPRなどの準備を始めている。

コンソーシアム連携体制の展望としては、プラットフォームの構築、海苔を入れた地産地消のイノベーションとSDGs、フレームワークとしての利用がある。

志摩市役所水産課の担当者からは、パールズコレクションでは若い方々に英虞湾のアコヤ真珠を知っていただき、その活用方法を考えていただくことがPRの効果があると考え、大阪夕陽丘学園短期大学と連携し、若い人材やノウハウを提供いただき、事業を進めることに志摩市として非常に大きな期待をしているとの説明が行われた。

③-1 別府大学短期大学部食物栄養科では、2020年度に実施した地域価値発見に関する取組みとして、一つは、津久見市の地域振興のため、津久見市観光協会、地元企業などが協力し、津久見産の海産物と魚米こうじを使った発酵調味料「ととのみそ」を開発し、2021年度中に商品化までこぎつけ、津久見市の新たな地域価値として発表できるように現在取組んでいる。二つは、大分の新聞社と協力し、郷土料理の伝承を目的としたレシピをYouTube上で公開した。三つは、県下の高校と連携し、郷土料理のコンテストをメールとZoomで打ち合わせを行い、コンテストに出品して地域価値の再発見に取組み、新聞社から改めて大分県の価値を発見できたという反応があった。

今後の展望としては、学生のアイデアを生かし、県下の自治体・企業等と協力し、新しい地域価値として物品や食品などを作成することと、他地域の短期大学・大学とも交流を拡大しながら、学生同士、教員同士の情報交換でさらに新しい価値の発見に結び付けていきたい。

③-2 和泉短期大学児童福祉学科では、新型コロナウイルスに翻弄され、「子育てひろば」など地域の親子を招いての活動ができなかった。今後の展望は、他大学の知見を取り入れ、地域の課題解決に学生のアイデア活かして取組む方策を考えていきたい。

④ コンソーシアム活動報告 3

「地域課題取組情報共有の支援事業 Web サイトの紹介」

私立大学における地域貢献・取組み事例として、文部科学省「令和 2 年度私立大学改革総合支援事業(タイプ 3)」に採択された短期大学からの抜粋で、各校のホームページから地域貢献等に関わる部分の URL を列挙し、連携する短期大学各校や地方公共団体、企業とで形成するプラットフォームで共有したいデータを簡単にアップロードし、閲覧できるようになっている。コンソーシアムのプラットフォームの目的は、各短期大学の地域課題の解決に向けた取組みの共有、支援事業の内容・成果、教育活動のノウハウ・評価等の掲載を通じて地域貢献支援への理解促進と推進普及に活用する。

Web ツールは、「Google Classroom」を使用している。特徴としては、動画・音声付レポートなどを容易に登録・整理でき、登録情報は会員間の中で容易に参照できる。公開する情報の総量に制限がなく、登録した情報のセキュリティは確保されており、会員短期大学ではサーバなど設備の準備が不要で、一切お金がかからない。私情協から非営利団体向けのアカウントが提供されており、会員になれば簡単に Classroom にアクセスすることができる。

【全体討議で理解の共有・確認が得られた主な点】

① 問題提起 1

「短期大学間による地域貢献支援事業のコンソーシアム活動プラットフォーム活用への課題・対応策」

文部科学省の「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」を参考に、地域連携プラットフォームの意義として、大学では地域貢献のニーズを知ることで大学の活性化に繋げることを確認するとともに、コンソーシアム活動に対する課題や対応として、プラットフォームの共通目標・方向性(単位化された授業科目に取り込むなど)の確認、プラットフォームの運営体制の明確化と維持費負担の検討(共通負担経費の分担、「地域創生推進交付金」等の補助金活用、クラウドファンディングの活用)、コロナ禍での連携活動では私情協のサポートを得て地域課題の共有と支援活動のノウハウを共有し、短期大学の教科に役立てるなどが提起された。

② 問題提起 2

「自治体から見た短期大学又は短期大学間との連携協力の有用性と推進方策」

日野市は人口急減など社会が大きく変化する中で、「生活課題産業化」として現場視点で住民・企業・大学等と行政が対話を通じて社会課題の解決とイノベーションの創出に向けて取組んでおり、社会的な学びを共有する場としての「リビングラボ」で住民・企業・大学・学生も社会実証に参加している。内閣府の「SDGs 未来都市」に選定され、日野の未来を創る研究プロジェクトとして地元高校との探求学習を推進したところ、リビングラボの出会いをきっかけに触発され、新たな活動を立ち上げるなど大人の姿勢に変化が生じてきている。短期大学には、より社会に近い視点、短い期間での効果的な学習という面で SDGs、リビングラボ、ソーシャルラーニングにおいてニーズがあるので、短期大学との連携に大いに期待している。

③ 意見交換

③-1 地域貢献活動に対する短期大学教育としての有用性

教育プログラムが過重のため、全員の訓練は限界があるので、希望学生を対象に課外活動の一環として一部の教職員の協力を得て、学生の興味・関心の高いテーマをとりあげ、自分ごとの問題として捉えさせ行動につなげる仕掛けがあると思う。例えば、ネット上にインスタグラムなどの映像やデザイン等を用いた地域価値発信による地域価値の掘り起こし、高齢者の生きがいを高める体験談の紹介や若者との語り発信による高齢者の存在意義の向上などの支援ができると思う。

③-2 地域貢献支援事業の教育上の位置づけ

単位化した授業としての実施が理想と思うが、学内での合意形成、支援体制の準備に時間がかかること、費用負担などが生じることから、できるところから取組み試行経験を積みながら、希望学生による課外活動として実施する考え方に意思表示を求め

たところ、3分の2から賛同を得た。

③-3 私情協のプラットフォームでの連携

参加校の存在意義を高め合うプラットフォームを活用して行動を起こす考え方に意思表示を求めたところ、3分の2から賛同を得た。

③-4 自治体等と連携を進める上で考えておくべき課題

自分たちの幸せと社会の幸せを追求しながら問題提起し、課題解決に向けた支援事業を考えることが大事とする考え方に、意思表示を求めたところ、3分の2から減少し、4割から賛同を得た。

③-5 コンソーシアムで解決策を発信、情報共有するプラットフォームの維持管理費の負担

自治体等の財源(地域創生推進交付金等)の活用、クラウドファンディングを中心として不足分を参加短期大学間での分担などがあるが、地域貢献支援事業の公共性に鑑み、自治体の財源を積極的に確保することが基本とする考え方に、意思表示を求めたところ、3分の2から賛同を得た。

④ 総括

「皆の役に立ちたい」という短期大学生の純真な心に訴えて、個人と社会全体の幸せを考えるウェルビーイングの価値観の醸成、地域価値の掘り起こしの魅力を参加校が共有して連携を強化できればと考えており、未来を託す輝かしい人材育成に向けて、本コンソーシアムに積極的に参加されることが要請された。